

## 世界はこんなピアニストを待っていた!! 日本のピアノファンの層も広げ、 安定感あるピアノは聴き手を特有の魔術で包み込む。

音楽は、アーティストがステージに登場したときから始まっている。桑原志織は胸を張って堂々と登場し、まっすぐにホールの隅々まで視線を届け、ピアノに向かうと一気に作品の内奥へと没入していく。その安定したピアニズムは日々のきびしい研鑽から生まれる賜物で、恩師の伊藤恵やクラウス・ヘルヴィツヒから伝授された「作曲家に敬意を表すること、楽譜を深く読むこと」という教えが生きている。演奏は派手なパフォーマンスもなければ、余分なこともいっさいしない。作品のすばらしさを聴衆ともに享受する、その徹底した姿勢はショパン・コンクールでも存分に発揮され、世界中のピアノファンが魅了された。

桑原志織は20歳から10年間にわたり、何度か国際コンクールに参加し、入賞に輝いている。これらのコンクールの場で、彼女は同年代の参加者たちの演奏のみならず、音楽に向かう真摯な姿勢、それぞれの国民性、悩みや喜びなどさまざまな感情を共有し、常に相手をリスペクトする姿勢を学び、《人間力》を磨いてきた。それがすべて演奏の糧となり、肉厚な音楽へと変容し、世界の聴衆の心をつかんできた。ショパン・コンクールで一気にファンが増え、日本のピアノファンの層も広げている。これまでショパンをあまり聴かなかった人やピアノのリサイタルを敬遠していた人までもが桑原志織の特有のピアニズムの魔術にかかり、ホールに足を運ぶようになった。

ショパン・コンクールの地元ポーランドでは「桑原志織のショパンが一番好きだ」と明言する人が数多く存在し、日本人として誇りに思える。その演奏を聴くと心が豊かになり、至福の時を過ごす喜びに満たされ、また聴きたい、もっと聴きたいという欲求が募る。世界のファン、日本のファンは、まさにこんなピアニストを待っていたのである。

伊熊よし子(音楽評論)



© Krzysztof Szlezak



### 桑原志織(ピアノ)

Shiori Kuwahara, Piano

東京都出身。東京藝術大学を首席で卒業。在学中にマリア・カナルス国際音楽コンクール(スペイン)、ヴィオッティ国際音楽コンクール(イタリア)にて第2位入賞。伊藤恵氏に師事。ベルリン芸術大学大学院に留学し、クラウス・ヘルヴィツヒ氏に師事。修士課程および国家演奏家資格課程を最優秀で修了。スタインウェイ・ベルリン賞受賞。さらにコモ湖国際ピアノアカデミー(イタリア)でも研鑽を積む。

2025年10月、第19回ショパン国際ピアノコンクール(ポーランド)にて第4位入賞。エリザベート王妃国際音楽コンクール2025(ベルギー)ファイナリスト入賞。また、日本人史上最高位第2位を獲得した2021年アルトゥール・ルービンシュタイン国際ピアノコンクール(イスラエル)、

2019年ブザーニ国際ピアノコンクール(イタリア)など、各国で高い評価を得ている。

国内外のオーケストラとの共演も数多い。ポーランド(ドゥシェニキ=ズドレイのショパン音楽祭)、チェコ(プラハ・ドルフィヌムのドヴォルザーク・ホール)、オーストリア、ドイツ、イスラエル、セルビア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、イタリアなど多くのヨーロッパ諸国や日本、韓国、アメリカなどで幅広く活躍している。

#### [次のことをあらかじめご了承の上、チケットをお求めくださいませ]

①やむを得ない事情により、曲目・曲順等が変更になる場合がございます。②公演中止を除き、お買い求めいただきましたチケットのキャンセル・変更等はできません。③いかなる場合もチケットの再発行はできません。紛失等には十分ご注意ください。④演奏中は入場できません。⑤未就学児の同伴はご遠慮ください。また、就学児以上のお子様もご入場には1人1枚チケットが必要です。⑥全席指定です。指定のお席でご鑑賞ください。⑦場内での写真撮影・録音・録画・携帯電話等の使用は固くお断りいたします。⑧ネットオークションなどによるチケットの転売は、トラブルの原因となりますのでお断りいたします。⑨他のお客様の迷惑となる場合、主催者の判断でご退場いただく場合がございます。